

5 . 事業の進捗

(1) 当初の予定

一般国道 16 号は幹線道路としての機能に加え、青砥坂交差点から杉田交差点間は横浜環状 3 号線と磯子 4 7 6 号線（産業道路）、一般国道 357 号、首都高速湾岸線を接続する交通が付加されることから、都市計画変更（ $W = 22 \rightarrow 28\text{m}$ ）し、横浜環状 3 号線の供用にあわせ延長約 500 m 間を拡幅整備することとしていました。

(2) 現在の状況

○ 全体事業費	約 100 億円	（国：約 70 億円）
うち用地費	約 52 億円	（国：約 34 億円）
○ 執行済み額	約 66 億円	（国：約 57 億円）
うち用地費	約 38 億円	（国：約 32 億円）
○ 供用区間	$L = 300\text{m}$	
○ 用地進捗率	約 70 %	

平成 11 年 4 月に横浜環状 3 号線の供用に合わせ、用地を先行的に取得してきた箇所を利用し、外回り側での 300 m の改良による右折車線の設置を行いました。

(3) 事業遅延の理由

当該事業は、横浜市事業である横浜市道環状 3 号線の接続による一般国道 16 号の交通付加を考慮し、横浜市との間で費用負担協定を締結し、環状 3 号線の用地買収を進めてきて、代替地の確保がされており、また地元情勢に精通していた横浜市により、平成 4 年から用地の先行取得を行ってきましたが、横浜市においてワールドカップサッカー関連事業への予算の重点的配分が行われたとにより事業費用が減少し、用地取得に時間を費やしていることや、一部代替地の確保などの問題により交渉が難航し、用地の取得に時間を要しています。

なお、横浜市では平成 15 年度に当事業箇所を「スムーズ交差点プラン」と位置づけ、渋滞解消を図るべく事業予算の確保を行っています。

(4) 関連事業への影響

当該事業区間に接続する横浜環状 3 号線は横浜市内の臨海部と内陸部を結ぶ道路ネットワークの形成を目的とした環状道路で、現在までに 28.1 km のうち一般国道 16 号接続部からの 8.7 km を完成させており、残区間についても事業中です。

今後横浜環状 3 号線が環状道路として形成されることにより、更なる交通量の増加が考えられることから、横浜環状 3 号線からの流入交通への影響が懸念されます。

(5) 事業遅延の社会的影響

一般国道 16 号は首都圏の環状道路であり、杉田交差点は横浜市中心部と横須賀市を結ぶ重要な交差点です。

杉田交差点改良が遅延することにより、慢性的な交通渋滞が発生し、横浜市内の環状道路によるネットワーク形成に支障をきたし、社会的影響が生じます。

(6) 事業の改善措置の検討

用地買収については、代替地の確保を中心に関係自治体の各種事業計画との調整を促進し、早急な対応を図ってまいります。

(7) 今後の予定

横浜環状 3 号線の接続、首都高速湾岸線の全線供用により、交通量のさらなる増加が予想されており杉田交差点改良の早期整備が求められています。

今後も、横浜市と十分な調整を図りながら、用地買収を促進し、平成 18 年度までに供用すべく事業を促進します。